

論文内容要旨

論文題目

パーキンソン病における介護負担の日米比較研究

責任講座： 内科学第一 講座

氏 名： 丹治 治子

【内容要旨】

背景：パーキンソン病（PD）患者は、歩行障害、動作緩慢、易転倒性、うつ、認知機能障害などの多彩な症状により日常生活動作が徐々に制限され、進行期には介護を要する。PDの介護において日米でどのような相違があり、両国における介護の文化的及び社会的背景が介護負担にどのように影響しているかを検討することは、今後の介護のあり方を考える上で意義深い。

目的：PD患者の配偶者における介護負担とQuality of life (QoL)について山形とアメリカのメリーランド（MD）で比較し、また患者及び配偶者のどのような因子と介護負担が相関するかについて検討する。

方法：山形とMDにおいて、PD患者の配偶者は介護負担に関する質問票（Caregiver Strain Index, CSI）に回答し、患者及び配偶者は健康関連QoL、精神状態、合併症について自己評価を行った。PDの重症度についてはUnified Parkinson's Disease Rating Scale等により評価した。山形及びMDでの結果をt検定、カイ二乗検定により比較し、介護負担と患者及び配偶者の因子との関係は相関分析及び多重回帰分析により解析した。多重比較については補正により $p < 0.03$ を有意とし、多重回帰分析においては $p < 0.05$ を有意とした。

結果：178組（山形では82組、MDでは96組）の夫婦が参加した。山形の患者及び配偶者はMDと比べてより高齢で学歴と就労率が低かった。山形の患者はPDの重症度がより高かったが合併症はMDより少なく、山形でより多くの配偶者が介護に関して他者からの支援を受けていた。介護負担の程度に山形とMDで有意差はなかったが（山形におけるCSI：

4.2 ± 3.6 、MDにおけるCSI： 3.7 ± 3.4 、 $p = 0.34$ ）、山形で身体的、時間的、及び経済的介護負担が大きく、MDでは精神的介護負担を強く認めた。MDで、患者のうつが介護負担と強い相関を示し（ $r = 0.56$ 、 $p < 0.001$ ）、配偶者のうつは両地域において介護負担と強く相関した（山形： $r = 0.44$ 、 $p < 0.001$ 、MD： $r = 0.57$ 、 $p < 0.001$ ）。健康関連QoLの内、全体的な健康認識としてのQoLは山形でMDより悪く、文化的背景の差異の関連が示唆された。

結語：山形において介護負担を高める因子が多いにもかかわらず、介護負担はMDと同程度であり、介護保険利用を含む他者からの援助が負担の軽減に影響している可能性がある。山形では介護保険をより効率的に利用することにより配偶者の負担を軽減できる可能性がある。MDでは患者のうつを改善するような介入が介護負担の軽減に効果的であると考えられる。両地域において、配偶者の精神状態は強く介護負担と関連し、介護者の精神状態に対する適切な介入が介護負担の軽減につながると考えられる。

平成 24 年 1 月 16 日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 丹 治 治 子

論文題目： **A comparative study of caregiver strain in Parkinson's disease between Japan and the United States**
(パーキンソン病における介護負担の日米比較研究)

審査委員：主審査委員 鈴木 匡子
副審査委員 加藤 丈夫
副審査委員 村上 正泰



審査終了日： 平成 24 年 1 月 5 日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

パーキンソン病 (PD) は多彩な神経症状を呈し、進行期には介護を要する疾患である。本研究は、山形とアメリカ合衆国(メリーランド)において、PD 患者の配偶者の介護負担、Quality of Life (QoL) と、それらに関連する因子を比較検討したものである。日米で合計 178 組の夫婦が参加し、介護負担、健康関連 QoL、精神状態、合併症についての質問票に回答した。PD の重症度は診察により評価した。その結果、全体的な介護負担の程度に日米で有意差はないものの、山形では身体的、時間的、経済的介護負担が大きいのに対し、アメリカでは精神的介護負担を強く認めた。配偶者のうつは両地域において介護負担と強く相関し、アメリカではさらに患者のうつが介護負担と相関した。患者と配偶者の全体的な健康認識としての QoL は、山形でより低かった。山形の患者および配偶者はより高齢で学歴と就労率が低かった。また、山形では患者の PD 重症度は高いものの合併症は少なく、介護への他者の支援をより多く受けていた。

本研究は PD の介護負担について国際比較をした初めての研究である。日米の文化的・社会的背景の違いにより、介護負担が質的に異なり、それに関連する因子にも差があることを明らかにした点は、今後両地域でよりよい介護を進める上で有用と考えられる。審査委員会では本研究が学位(医学博士)に十分値するものと判断し、合格とした。